



第7号・臨時号  
令和3年  
9月13日発行

# 大げやき

こころざし高く  
思いやりのある  
深小っ子の育成



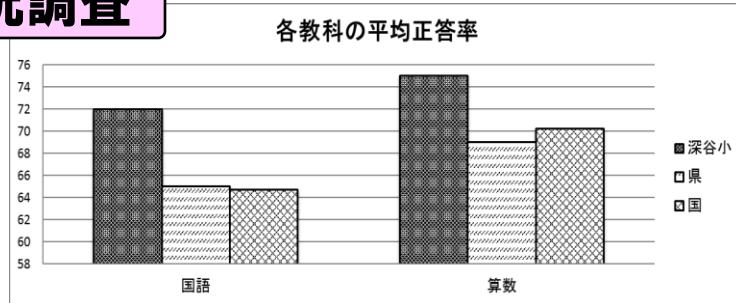
## 学力向上に向けて

9月に入ってから、朝晩がだいぶ涼しくなり、季節の移り変わりを感じます。保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に対して、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。さて、毎月末に発行しています学校だより「大げやき」ですが、今回は臨時号といたしまして、本校の子供たちの学力の様子をお知らせしたいと思います。

新聞報道等もされていますが、4・5・6年生が5月20日に「埼玉県学力・学習状況調査」を、6年生が5月27日に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。その2つの学力・学習状況調査の結果が戻ってきましたので、結果の概要をお伝えいたします。なお、質問紙調査の結果は、学校ホームページで公開しておりますのでご覧ください。

## 全国学力・学習状況調査

平均正答率		単位(%)	
年度		国語	算数
R3	深谷小	72	75
	県	65	69
	国	64.7	70.2



「よかった点(O)」と「課題(O)」

課題への取組・改善策

- 【国語】
- 平均正答率において、埼玉県の値に対し7%上回っている。また、ほぼすべての問題において、全国及び県の正答率を上回っている。
  - 無解答率が非常に少なく、長めの文章を書く記述問題においても無解答率は0~3.7%であった。(県は1.8~9.1%)
  - 全国及び県の正答率も低い、「修飾と被修飾の関係を捉える」問題において、正答率が43.9%であり、全問題の中で最も低い正答率であった。
- 【算数】
- 平均正答率において、埼玉県の値に対し6%上回っている。また、ほぼすべての問題において、全国及び県の正答率を上回っている。
  - 以下の3つの問題について、県の正答率をやや下回った。
    - ・午後1時35分から50分後の時刻を書く。
    - ・直角三角形を組み合わせた図形の面積についてわかることを選ぶ。
    - ・余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く。

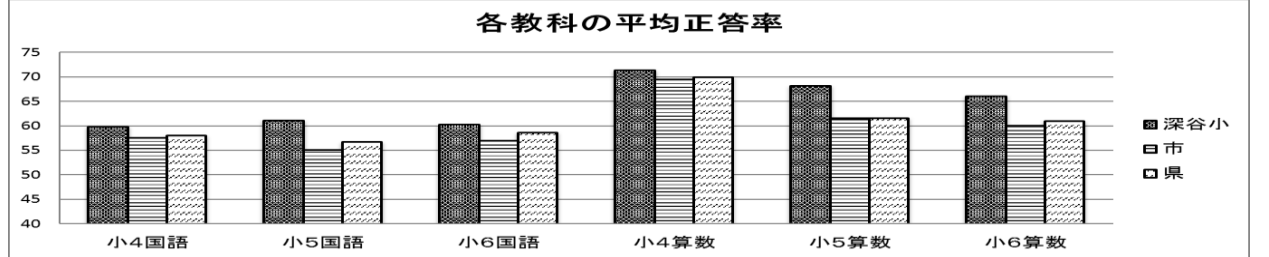
- 【国語】
- ・業前の時間に取り組んでいるチャレンジタイムで、繰り返し文章記述の問題に取り組む。また全ての解答条件をクリアしている記述かどうか振り返らせることで、自分の解答の課題に気付けるようにしていく。
  - ・課題のあった修飾語の問題について学習する場面を増やし、定着を図る。
- 【算数】
- ・チャレンジタイムで、答えに至る過程を説明することを繰り返す。
  - ・図や式から考えを説明したり、考えを図や式にしたりする活動を意図的に取り入れることで、図・式・言葉を関連させて考える習慣をつける。

## 埼玉県学力・学習状況調査

平均正答率

単位(%)

年度		小4国語	小5国語	小6国語	小4算数	小5算数	小6算数
R3	深谷小	59.8	61.1	60.2	71.3	68.1	66.0
	市	57.5	55.1	56.9	69.5	61.5	60.0
	県	58.0	56.7	58.6	69.9	61.6	60.9



各学年の課題(O)

※良かった点についてはホームページに掲載しています。

- 【国語における課題】
- 4年：記述式問題において正答率が12.8%と低く、県や市の平均を下回った。また、県や市の正答率も低い、「辞書の正しい使い方」に関する問題の正答率の低さが目立つ。
  - 5年：記述式問題において正答率23.4%と低く、県や市の平均を下回った。また、「話すこと・聞くこと、書くこと」に関する領域がわずかではあるが県や市の平均を下回り、他の領域と比較すると平均正答率も低い。(深谷小：38.7% 県：40.6%)
  - 6年：登場人物の心情の説明を選ぶ問題(深谷小：54.3% 県：66.8%)や登場人物の考え方を説明する問題(深谷小：54.3% 県：57.8%)でやや正答率が低く、読解力における課題が見られた。
- 【算数における課題】
- 4年：円の性質を用いた問題全て(3問)において、県や市の正答率を下回った。また、表やグラフに関する問題(データの活用)でも県や市の正答率を下回る問題が多い。
  - 5年：概数を用いて足りるかどうかわかるか見積もるときの考え方を考える問題において、48.4%の正答率で県の正答率を10.5%下回った。
  - 6年：割合に関する問題で、県の正答率を下回る問題が2問あった。また、県の正答率も低い、「記述式の問題」において正答率が8.6%と低かった。(県：5.7%)

課題への取組・改善策

- 【国語】
- ・「書くこと」に関しては、国語の時間だけでなく他教科とも関連させることで、根拠を持って自分の考えを説明する力をつけていく。
  - ・辞書を積極的に使用し、言葉の意味理解だけでなく語彙を増やせるようにしていく。
- 【算数】
- ・少人数指導で個に応じた指導をきめ細かく行い児童の学力を伸ばす。また、基礎・基本の内容の理解に不安のある児童は、短時間の補充教室を継続して行い、定着度を高める。
- 【その他】
- ・学習内容の定着、学習意欲向上のために、ICT機器を積極的に活用した授業を展開する。それに伴い、児童の機器の活用力を高めるための時間も設定していく。

本日4年生から6年生には結果の個票を配付しました。担任からも説明しましたが、各家庭で、子供たちの苦手な部分を把握していただき、今後の学習に活かしていただけたいと思います。なお、個票は再度学校に持ってくる必要はありません。